

ISG石井スポーツグループ × SIDAS

ウェブ上でフィッティングを確認。 〈FEETBOX® 3D〉がもたらす 近未来のスキーブーツ選びとは？

スキーのもっとも重要なマテリアルと言っても過言ではないスキーブーツ。だから、ブーツを選ぶ際には、ブランドやモデル、サイズ違いのものを履き比べるのが一般的だ。だが、そんなブーツ選びを一変させるものが登場した。今季からシダスが取り扱うコーパス社の〈FEETBOX 3D〉が、それだ。ISG石井スポーツグループがシダスとコラボした結果見えてきたブーツ選びの近未来の姿を探る。

確かなパワー伝達性や俊敏な反応、快適性など、ブーツに求める性能は、スキーヤーの志向や目的によってさまざま。だが、その前提となるのは、長時間履いていても特定の箇所が当たって痛みが出たりしないフィッティングの良さと言えるだろう。だが、人の足の形は100人いれば100とありあると言えるほど多種多様。その一方でブーツは平均的な足型をベースに作られている。そのため、店頭でブーツを選ぶ際には、いくつものブランドやモデルのブーツを、場合によってはサイズ違いで履き比べることが普通になっている。そして、自分に合う一足を見つけたあとでも、特定の箇所が当たる場合は、シェル出しや削りなどのチューンナップを施すことが必要になる。そうして手間暇をかけて選んだ一足だからこそ、かけがえのないブーツになるとも言えるが、そこに煩雑さを感じる方も少なくないはずだ。

その煩雑さを軽減してくれるのが、インソールやソックスブランドとしておなじみのシダスが取り扱うコーパス(Corpus-e)の



佐藤孝幸
ICI石井スポーツカンダコンベカン

〈フィートボックス3D〉(FEETBOX 3D)とそれを元にする仮想フィッティングシステムだ。

〈フィートボックス3D〉は、足のあらゆる情報を統合させるプラットフォームを備えた精密なスキャナー。それを取り扱うシダスの吉田朋泰は、その特徴を次のように語る。

「〈フィートボックス3D〉の特徴は、足のデータを3D画像にして見せてくれることと、足圧を測ってくれることです。そして、その足のデータを元に、コーパスの中に取り込んでいるブーツをウェブ上で履かせて、フィッティングの具合をみるということです」

足の測定は非常に簡単だ。専用のソックスを履いて〈フィートボックス3D〉の上に立てば、スキャナーが台の周りを1周して足の写真を撮影。それを統合することで、足からスネにかけての形状を3D画像として見せてくれる。通信環境にもよるが、そのために必要な時間はほんの数分。パソコンの画面上とはいえ、自分の足やスネの形状をリアルな3D画像として見られるのは、それだけでもちょっとした驚き。この時点で足幅やスネ周りの太さなど、足とスネの正確な数値を知ることができる。

スキーヤーにとって注目すべきは、その次のステージ、ウェブ上でのブーツフィッティングだ。まず、コーパスに記録されているブーツの中から好みのブランド、モデルを選択、そしてサイズを選べば、そのブーツを履いたときの足の状態が画面上に表われてくる。面圧の強い部分は赤や黄色で、面圧の弱い部分は青く表示されるので、そのブーツを履いたときのフィッティングを視覚的に確認することができる。ブランドやモデルによる面圧の差は明確にわかるので、ブーツ選びは格段に簡単になるはずだ。ICI石井スポーツ・カンダコンベカンの佐藤孝幸は、このコーパス社のシステムについて、こう語る。



吉田朋泰 SIDAS JAPAN

「今まで私たちはISGフィットという形で、お客様の足を測って、どこが、どれくらい当たりそうかということをやってきました。コーパスのシステムを使うことで、それをしっかりと目に見える形で視覚化できます。そしてチューンナップが必要な場合、ここを重点的に直していきましょうということも、今まで以上にお客様とコミュニケーションを取りながら進めていくことができる。このように、今まで感覚でしかなかったものを視覚化できること、そして、お客様とスタッフとの非常に有効なコミュニケーションツールとなること、このシステムの大きな特徴と言えると思います」

*

コーパス社のこのシステムを使って実際にブーツ選びをするとき、その第一歩となるのはインソール作りだ。人間の足は多くの場合、もともとのナチュラルな状態から外れ、内反したり、回外した状態になっている。その足の状態をインソールを使ってナチュラルな状態に戻してからブーツの中に収めることが、ブーツが本来持っている性能を発揮したり、ブーツの中で足を正確にフィットさせるために必要になるからだ。

実際にどのブランドの、どのモデルにするのかは、コーパスのシステムの仮想フィッティ

SIDAS
YOUR FOOT COMPANY™



①専用のソックスを履き、〈フィートボックス3D〉で脚の形を測定。ここにかかる時間は数十秒

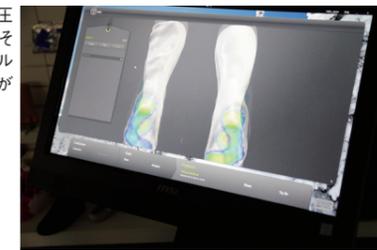


②足のボリュームやレッグアライメントなど、足と脚の正確なデータが表示される



④〈コーパスE〉に搭載されたスキーブーツのデータにアクセスすると、選んだブーツとの相性をパソコン内で視覚化してくれる。赤い部分が圧が強くなっている場所で、紫色の部分が圧が弱い部分になる

近未来のブーツフィッティングは
カスタムフェア有明会場で体験可能!



③足の裏にかかる圧を正確に測定でき、そのデータはインソール作りに活用することができる

ングを元にして選んでいけば良いだろう。主要ブランドのモデルはほぼ網羅されているので、特定の箇所の面圧が強くなり出たり、逆に緩すぎてしまうことがない、適正なサイズ、フィッティングの一足を見つけることができるはずだ。

面白いのは、特定のブランドやモデルを決め打ちで購入する場合にも、このシステムが効果的に働くことと佐藤が話していることだ。

「たとえばAというブーツだと90%、Bというブーツだと75%、Cというブーツだと60%のフィッティングになるお客様がいるとします。でも、そのお客様の滑りや目的、ブーツの構造などを考えると、Cというブーツが最適な選択になる。そんな場合も、コーパスのシステムでフィッティングした状態を見ることで、ブーツのどの箇所を、どうふうに直していくのか、チューンナップの方向性をしっかりと理解してもらい、納得してもらったうえで進めていくことができるようになります。それは今までと変わらない部分なのですが、視覚的に目に見えることで、よりその精度が高くなりますし、そのブーツを使ったときのメリットもデメリットも理解したうえで使ってもらえるのは大きいと思います」

一足のブーツを選ぶために、店頭で何時間もかけて、いくつものブーツを履き比べたりする時代は、コーパスのこのシステムが登場することによって終わりを迎える。驚くべきは、このシステムは今も進化を続けているということだ。今はまだ静止した状態でのフィッティングだが、近い将来、ブーツを履いて動いたときにフィッティングがどうなるのかをシステム上で見ることも可能になるという。

近未来のブーツ選びとも言えるこのシステムは、今季、ISG石井グループのみが導入予定。直近では、カスタムフェア有明会場で登場するので、ぜひ体験してもらいたい。

